

特254

899

308

崩壊を辿りつゝある

中國國民政府

添付國民政府因解

國情



始



特 254
899



崩壊を辿りつゝある

中國國民政府

|| 添作國民政府圖解 ||



滿州王として一時飛ぶ鳥も落すの猛者若き將軍張學良も、昨年四月敗
戦の責任者として全支那人民の嘲罵の声を後に寂しく歐州に旅して以來
歸口まで約半歳余、その間彼學良は概観文明の精美を誇り歐州列強の現
実を目撃して如何に彼の古い軍閥的意識が影をいぞめた事か。
彼の師範第一の声明は時代に對する新らしい認識をほのめかけたもの
である。

だが彼の歸口はその運命の展開を約束するものである。張學良の未來

には一年前嘗め大谷杯にもまして尚幾多の深刻な苦悶が惹起されぬ。
しかもこの悲劇的な若き張學良の宿命からは同時にまた今日の必然的
崩壊の最後の段階への足踏みを早めつゝ、或は口民先政権の形相が浮び
出して来る。何が故の苦悶か、何が病みの崩壊か、この疑問を解く為め
には張學良下野以来一切の財政政策の破綻がある次の時代への暗躍を見せ
て来る口民先政権の真相を見究めねばならぬ。
學良最後の地、熱河戦争は如何なる結果を招いたか、云ふまでもなく
熱河の喪失と日本軍の北支進撃とであつた。これが大め民口々防の重任
を負ふ軍事委員長蔣介石は自ら馬を保定に進めて表面日支の全面的衝突
と見せて巧みはこれに塘沽停戦協定へと転向せしめたのである。
かうして張學良の下野が出来たのである。
然しこれが高め強さ北支もは何か、ソビエト圏の拡大強化と中央
政府の加速度的な内債膨張であつた。然し親日派と称せらるゝ、冀郭の出
現によつて辛うじて北支紛糾は收拾され、學良が私して来た北支の収税

収を中央に接收し得たが、現実問題として北支に對する月額約二百萬元
の中央の負担となつたのである。

熱河戦の見込違ひは必らずしも學良一人の責任だとは云へない。當時の
財政部長の身を以て排日派の頭目宋子文もその一半を擔はねばならぬ。
宋子文もその一半を擔はねば、宋子文は炭口庫券の名を以て昨年三月、
二十萬元を募債し、更に上海銀行四より六十萬元迄くの不義理な借財を
起したのである。

これが高め口民先政権の財政的信用は地に墜ち、その公債市價は維持す
べくもなく、昨年四月海關稅収より毎月八百六十萬元を捻出するこ
とを決定すると同時に、口債基金管理委員會を設置して内口公債基金を
管理すること、辛うじて財界の安定を計つたのである。

蔣介石の財政

日支停戦協定成立後の蔣介石政権の政治プログラムに歸まれば

第五次剿共事業である。
 梅介石は二十九師の陸軍と

海軍

- 第一艦隊（沿岸艦隊） 司令 陳 李 良
- 海籌、海容（以上並洋艦）
- 永建、永鎮、海鴻、海島、海瑞、逸仙、民生（以上砲艦）
- 普安、草安、定安（以上運送船）
- 第二艦隊（長江艦隊） 司令 曾 以 鼎
- 楚有、楚同、楚恭、楚謀、楚觀、大同、自強、武勝、德勝、威勝
- 江元、江貞、公勝、義勝、勇勝、誠勝（以上砲艦）
- 民权、民族、永綏、江鯤、江平（以上河用砲艦）
- 魚雷游擊艦隊 司令 王 壽 廷
- 豫章、建康（以上驅逐艦）
- 湖鵬、湖鄂、湖鷹、湖隼、辰字、宿字、幻字、張字（以上魚雷

艦）

- 海防陸戦隊（福建） 司令 林 口 賓
- 第一独立旅長 林 恩
- 第二独立旅長 林 壽 口
- 第三艦隊（元東北海軍）隊長 謝 剛 哲
- 永翔（砲艦） 同安（驅逐艦） 鎮海（運送船）
- 第二艦隊（芝罘） 隊長 袁 方 高
- 楚飛 江利 飛龍 海燕 海鷹 海鷗（以上砲艦）
- 威海 定海（以上運送船）

以上の陸海軍を拵つ梅介石は何よりも先づ軍費の調達が緊急問題とす
 べし。近代戦においては軍費の多寡は勝敗を決すべき積極的要求である。
 況んや中口内戦の尸臭は此を有力に物語つておる。

梅介石は第五次剿共工作着手に先立って、廬山に於いて実施した第一
 期少壮幹部校訓練を終りに際し極めて興味ある訓示を與へておる。

諸君は帰隊後先ず最初部下にかく訓示せよ、
今後討伐軍隊の経費供給は、所定の時期に必ず支給し、減額すべし
なし、若し支給せず又は支給遅延兵は減額すべしと云はれば直接委員
長に推問すべし。

蒋介石は第一線に立つ將兵に對してかうした点まで訓示し配慮しなけ
ればならぬとは實に心許ない話である。これに配慮して敢てねばならぬ
蒋介石政権を弱ふ財政は如何なる状態にあるか、

支那統計學者の計算によれば

軍 政 費 八、五〇六 金融整理費 九、四〇六
賑 災 費 三、九六六 練業救済並水打整理費

を以て示されば内債は第五次討伐總攻撃の開始より一九三三年十月一
日現在の総額九億八千三百六十九万五千元へ飛行額は十八億二千七百十
二万余元へ上つておる。

しかして賠償金其他外債は三十六百三十余万磅を数へるが、これ等は

主として関税又は塩税収入担保とするもの多く、たゞ口口民政存唯一最
大の関税収入もこれ等を控除すれば毎月僅かに五百萬元の剰余あるに過
ぎない。

塩税も亦公債担保を除けば政府の月収は五百萬元と云ふべく、税
収入も月額七百万を減すのみで三種合計の月収は一十七百万元、その
他各種収入を合算して総収入は多くとも月額一十九百万元を過ぎない。
然るに軍政費、建設費合して月額三千五百万元と云ふから、毎月一千五
百万元、年一億七千万元は足を出しておる有様である。

ここを足等の赤字は結局、公債或は借款を以て賄ふより外なく、財政
部は一九二八年一億三百万元、一九二九年一億四十三百万元、一九三
〇年一億七千四百万元、一九三一年一億二千四百万元を公募して来た。
債をなすずして三三年には一億二千四百万元を公募して来た。

是等の公債が市場に大割前後で消化されれば、通貨の膨脹を来し、
貸付は増大し、金融の危機を頻りに来せしめつゝある。かうした理由で口民

政府の公債政策は全く行詰ってしまった。

此処に至つては政情不安であり、軍用割取の支那に於いて、総務司たる英人メーダ管理の関税のみが、信頼するに足る唯一確実の財源であった。この増収を計り人とするは容易い道理であるが、宋子文も亦この手を付て昨年五月二十二日暫定新聞税則の実施を決定して、ロンドン世界経済会議に出席したのである。

天災に次ぐ不断の内戦に禍され、農村の疲弊は極度に達し、購買力は著しく減退しつゝ、あつた際、右の高率関税実施によつて果して所期の増収を挙げ得るであらうか。しかも昨年一月より十一月に至る輸入總額は一昨年の同期に比し一億六千六百六十余万円の減収を来し、輸出總額に於て一億四千六百八十余万円の減収を来しておむのを見れば一九三三年の支那政府対外貿易は全般的に激減しておむと云ふ事が出来る。

斯くては、南京政府當局の関税徴^増の見込には相當の誤算があつた。

福建政權樹立と蔣介石に對する影響

蔣介石は共産軍總攻撃を準備すべく宋子文に軍費の調達を命じた。しかし宋子文としては唯一の帰口土産である五千万余元の棉皮借款を軍費に振り向けることは當時種々の關係から不可能な事であつた。

軍費は如何に調達の方法を講じねばならなくなつたが、前記の状態では宋子文の手で新しく公債を發行するのには仲々困難とされた。

だが昔に懐はかへれば、遂に一億元の関税庫券の發行を決定し、先づ中央銀行その他に對し、熱河戰當時の不良借出を整理して改めて總額軍費として借出すことを計画したのである。

その水でも當時の浙江賦税も右から尤と容易くこの水に應じ得るまで余裕もなし、殊に財政部當局を信用しなかつた。だが、蔣介石は總攻撃を繰延べ下らぬのやうな催促を以て責め立てた。

此処に至つて財政部長宋子文も遂に政策行詰りとなつて辭職の擧げ出

氏のである。この結果同じく宋子文姻戚の一人、中央銀行總裁孔祥熙が口
民政務財政部長として登場する事となつた。

然らば孔祥熙は如何なる心構へを以て財政部長の地位を継任したのか、
彼は就任勿々新聞記者に對して、山窮つて水盡くとも云へば中口財政建
直しはさして悲觀せずと豪語し且つ浙江賦税の後援を仄かし目前の討共
費も才覚し得る見込みであると宣明し、財政建直しには田賦の整理、道
産税の新設、洋米表税並に塩稅統稅の整理加徴による開源と行政費縮減
の節流即ち入るを計つて出かゝるを剛すと云つた要懇約的政策を強調した
ものである。

その後孔祥熙は宋子文の施行し得なかつた一億元國稅庫券條例を立法
院の可決を得て直ちに実施し、十月三十一日中央銀行から出札を發行し
各銀行の熱河戰争時の臨時借款六十餘萬元を返済、改めて中央、中口、
交通、口貨、興業銀行から一千五百萬元の借入に成功し、更に額面五百
萬元の新庫券を担保として鉄業同業公會主席蔡潤卿との間に二百五十万

元の借入契約を結んば一時軍費調達の急場を借つた。

一方この間に西南派の間に及中央的空氣が醸成され、あつたが、果
然去る十一月二十日、陳極、李濟派、徐廷階等は福州に於て人民革命
政府樹立へ別表を宣言し、各方面の及解分子はまた翕然としてこれと
呼應するかに見えた。

この及中央派に比例して上海公債市場は日々ガタ落ちを続け十二月七
八日頃は立会中止の止むなきに至つた程で一落千丈の勢は決し難いもの
であつた。

しかも中央の軍費調達といふ宿命に愈々深刻な形相を呈し出し、また
も孔財政部長は一月十日の中央政治會議に一億元庫券發行を上提可決を
得たのである。

財政部長孔祥熙の

正直な告白

前財政部長宋子文は政府と浙江賦税との関係を田馮忠持にしてその賦
源を賦税の河に確保せんとし、尙も金融界の御気味を換ふが如きは極
力回避して来氏。

此水に及して孔^詳熙は金融界のことなどは大して顧慮に置かず、しかも
節流を志して無茶苦茶に財政自体の崩壊に猶突する積極政策を執つてお
る。しかも不統一な口民政存は悪税を自ら消費税に依拠するより外に方
法がない運命に置かれ、物には自ら限度がある。五月実施後の商
率因税によつて如何に密輸がふたつ、あるか。

輸入額の減額は口内産業に対する保護的政策の反應ではなく、支那の
あつては、それだけ密輸が増加して面白事を百力に実證するものがある。
本年一月八日、孔子七十五世の後裔たる財政部長孔祥熙は紀念廻覧
會席上で此水を告白してゐる。

昨年白糖糖は奢侈品なる故を以て輸入税を増加したるも、その結果
は奸商の密輸により収入は却つて従前の四割八分となり、密輸防止

は最悪なる組織を要するも中央には是を取締る莫大な費用を以
てかくの如く税収に打撃を及ぼすものがある。

と。だが、密輸と云ふものは奸商ばかりで出来ぬものではない、裏面に
臣官吏がへ支那の如きは一躍つておると云ふことはさ下がの孔子様の子
孫も云い憚つた。

國民黨政権密築蘇蘇曲

口内の政局不安に起因して上海は昨年下半年期以来加速度的に集中増加
した現銀の總額は昨年末の一億九千萬元に比すれば今年末は三億五千万
元といふ巨大な数字を示してゐる。

かうした巨額の遊資がダブつてゐるにも拘らず、政府発行の公債の
心喰い作かぬことは何を物語るか、此水の中口賦税の中央政存に對する信用
の程度を如実に反映してゐるものと見れば、今や次第に目前の此地に足
踏を早めつ、ある口民政権の命脈も指を折り、へさるゝのである。

福建人民政府は崩壊したけれど、それは単なる軍閥としての蒋介石及び中央軍の面目を一時的に保ち得たといふ以外の何物でもない。

倒れるべき必然的契機を内蔵して倒れるに至つた人民政府は、却つて福建省をして怖るべき中ソウエート政權の温床としたのである。

換言すれば人民政府の崩壊は蒋介石の軍費に、即ち中央の財政に次の重圧を約束するものである。何と云へば福建省を契機にその勢力を全面的に拡大し来つた江西共産軍に對し蒋介石は今後二倍の兵力を要するだらうといふ事は今日軍事専門家の誰でもが一様に口の上で有力な觀察を為さるのり。

四中全會開會後には於ける蒋介石の對西南工作如何、及將運動は今後如何なる形態を執つて現れるか、これ等の問題は後令所印の重大性を拵つたとしても畢竟するに中口内乱史上極めて通俗的且大衆劇の一部曲に過ぎないものである。

敘上論の結語として必要なることは、口人民政府の軍費は今後増加するに

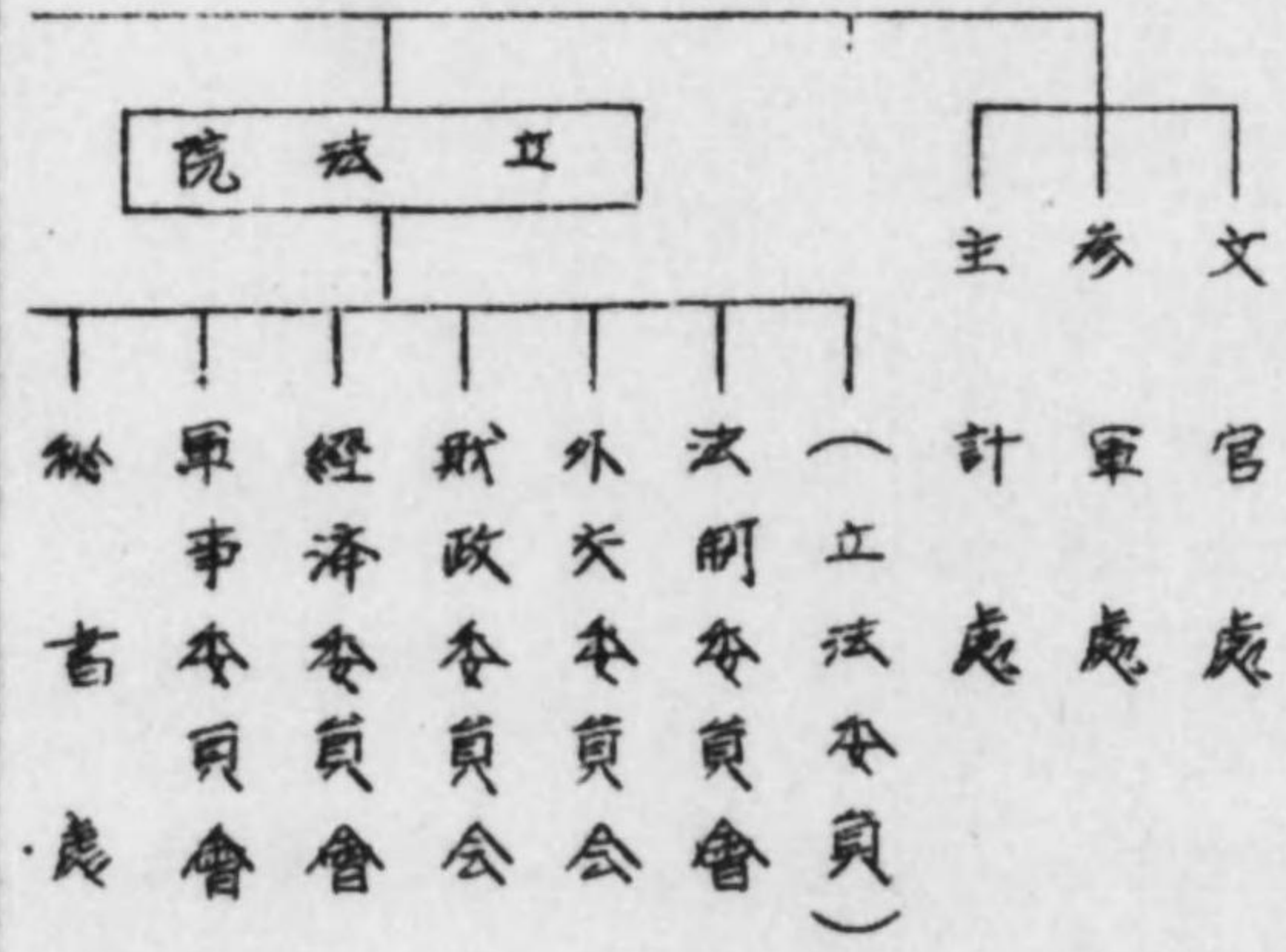
香分を省く美分の非は口民費は亦甚難有泰由の事なり了何分はなるか、
す野を為すの非はスススル也、故にりす、亦野の骨髄の非は復然の念も、
「やま」の標榜を建ち、衆の首領の聲をよめ、其の、
此の、
「首領」を標し、此の、
「一軍」を標し、此の、
「一軍」を標し、此の、

も大して減じはしないこと云ふ嚴然たる一争である。

この一争があるが故に口民政府は米塩を始め口民必需品の一切に對して消費税を課しこれを担保として今日尚執拗にも公債をダンピングしてぬるのである。

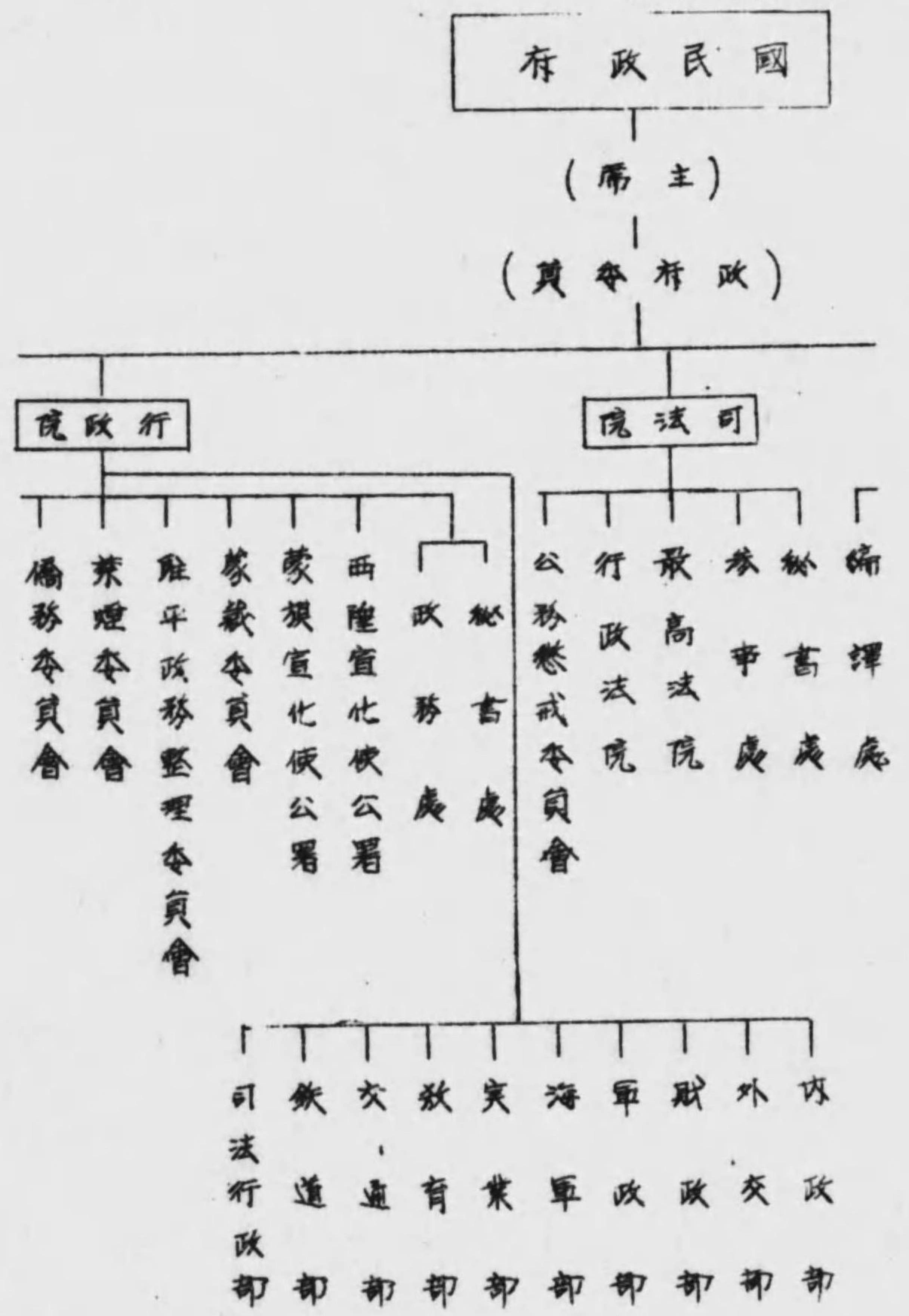
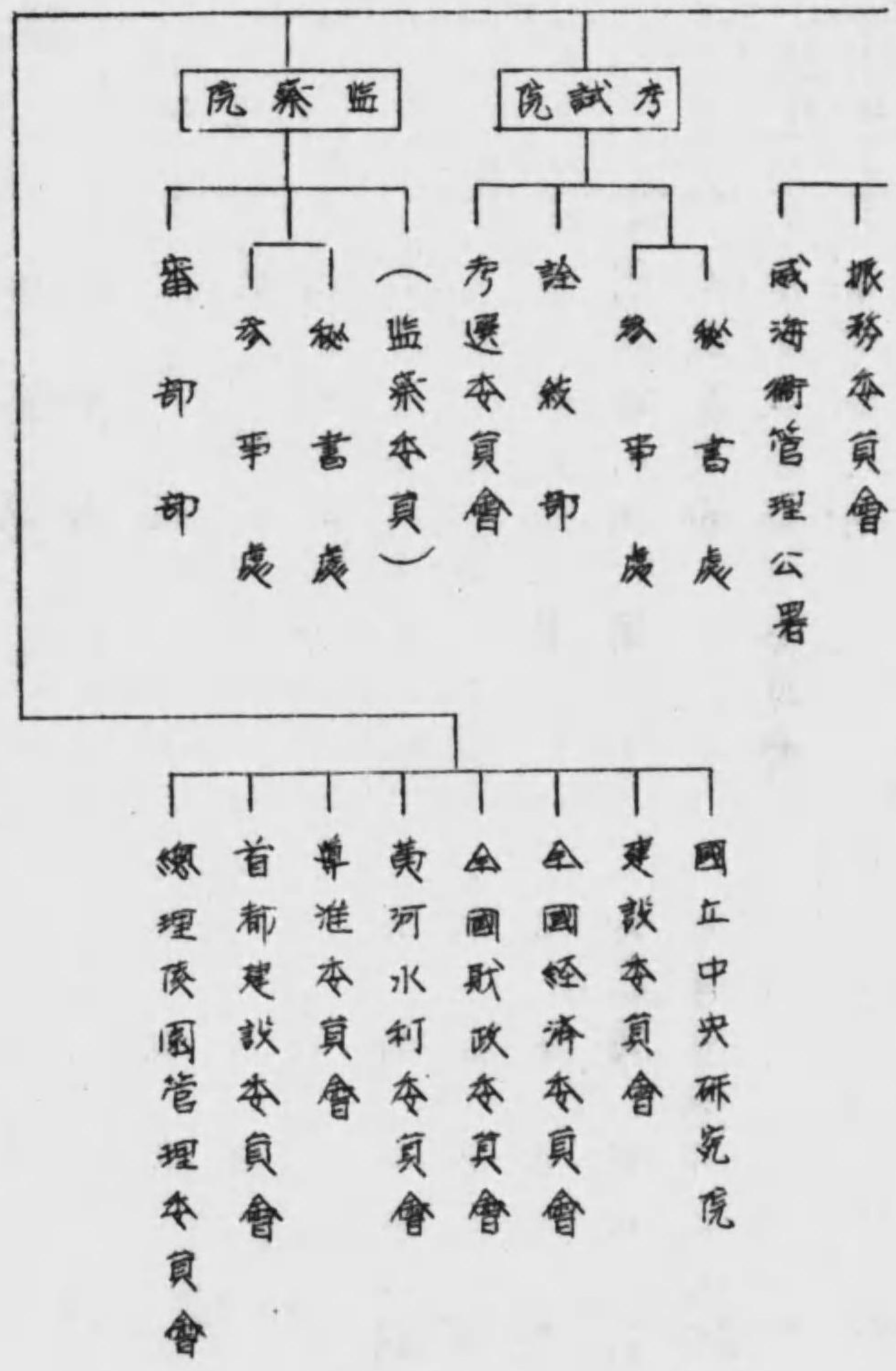
しかもこの無謀な財政マ策の背後から響いて来るものは何か、それこそ油を点せられ火災の如く拡がり行く赤色の脅威と浙江斯所の冷たい露及を前に美せられる口民党政権策謀茶毒をなくして何をあらうか？

中華民國國民政府組織系統及重要職員表



國民政府組織系統

中華民國國民政府組織系統



國民政府重要職負表

主席 林森

政務委員

蔣中正	胡漢民	唐紹儀	張人傑	蔡元培	蕭佛成
鄧澤如	許崇智	王法勤	李烈鈞	鄒魯	
陳立夫	葉楚傖	王伯群	黃肇生	閻錫山	熊克武
馮玉祥	趙戴文	王樹翰	劉尚清	薛篤弼	柏文蔚
程潛	經亨頤	恩克巴圖	楊庚堃	劉守中	楊樹莊
王正廷	伍朝樞	張繼	周震麟	宋子文	

文官處

參軍處

文官長 總 處

秘書

楊熙績 周仲良 許靜芝 徐恩陶

高凌百 錢昌照 黎承福 朱文中

謝 傑 汲 璠 譚 炯

參 事

沈 鈞 陸 煥 楊 逸 王汝翼

廖若島 程起陸 蕭贊觀 熊逸決

王 恕 政陽暄 成濟安 祁雲龍

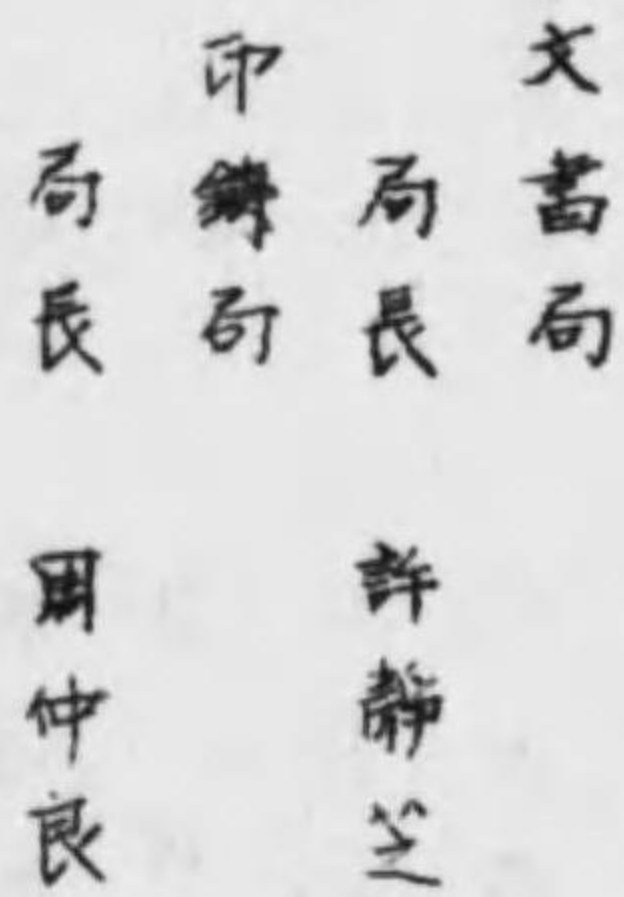
姜起嶽 林 競 劉冕凱 顧忠琛

張慕先 魯魯山 徐朝桐 李效明

樊象離 陳屹懷 張貫時 陳名豫

楊文蔚 海 濤 張維翰 殷汝驥

李鴻文



參軍長 呂超

參軍 張希壽 黃惠龍 彭鼎民 傅錫政 | 總務司 舒石父

楊虎 田士捷 唐勇 舒石父 | 典權司 局長 張希壽

毛仰方 耿觀文 石齒鈞 王石鈞 局長 張希壽

王孝綱

主計處

主計長 陳其采

主計官 兼 汾 楊汝梅 吳大鈞 | 兼計司 局長 (兼) 陳其采

鐵道部會計長 張觀生 | 會計司 局長 兼 汾

局長 吳大鈞 | 統計司 局長 吳大鈞

立法院

院長 孫科

副院長 邵元冲

立法委員

定員四十九人乃至九十九人、半数ハ官選、半数ハ法定人民因体
一於之ヲ選舉ス

法制委員會

外交委員會

財政委員會

經濟委員會

軍事委員會

各委員會委員ハ立法院委員中ヨリ之ヲ任ス、委員長ハ院長之ヲ指定ス

秘書處 秘書長 梁寒操 秘書 王宣漢 區鼎新 程元斟

編譯處 處長 謝保樵 編輯 高養潔 謝敬宇 梁廣恩

司法部

院長 居正

副院長 覃 振

秘書處 秘書長代理(兼) 謝冠生 秘書 伍大光 陳 明 王

鈞善

參事處 參事 謝冠生 吳民五 劉子芬 蔡連生 王 錫 希

最高法院 院長(可法院長兼任) 書記官長 劉子芬

檢察署 檢察長 鄭 烈

行政法院 院長 茅祖權 書記官長 朱錫百

公務員懲戒委員會 委員長(可法院副院長兼任)

行政院

院長 汪 兆 銘

副院長 朱 子 文

秘書處 秘書長 褚民誼 秘書 曹泉蔭 屈向邦 方叔章 劉

沫蘭 陶公衡 明 遠 張國吉 溷 良 黃 濬 陳

帝 燾 (心 研)

政 務 處 處長 彭學沛 參事 陳 銳 李大年 吳頌皋 朱宗

良 鄧介松 徐家樞 劉叔模 劉存叔 張志讓

西陲宣化使公署 宣化使 班 禪
總 務 處
宣 傳 處

蒙旗宣化使公署 宣化使 章嘉 秘書 李建章 蒼吉爾成古

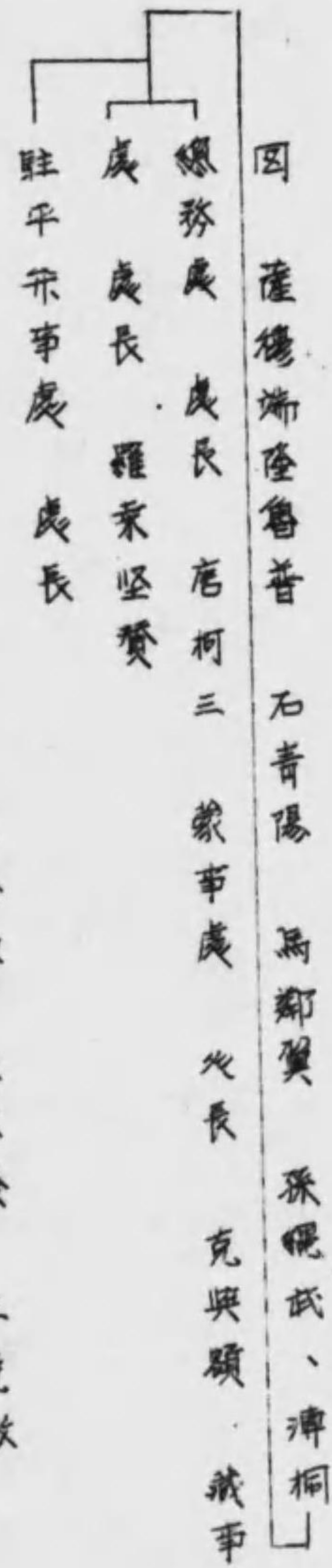
總務署 處長 李壽山
宣傳署 處長 官書記

蒙藏委員會 委員長 石青陽 副委員長 趙玉廉 秘書 雷格存

孟自成 參事 吳福齡 楚明善

(特別委員) 連順 班禪

委員 張繼 孫繩武 唐柯三 羅素囊嘉 格來澤仁 李鳳崗
克興額 岑培天 恩克巴圖諾那呼圖克圖 章嘉呼圖克



駐平政務整理委員會

- 委員 黃 鄂 李煜瀛 蕭振瀾 韓復榘 干學忠 徐永昌
 秘書處 秘書長 何其鞏
 調查處 主任

委員

- 黃 鄂 李煜瀛 蕭振瀾 韓復榘 干學忠 徐永昌
 宋哲元 王伯群 王揖唐 王樹翰 傅作儀 周作民
 恩克巴圖 蔣夢麟 張志潭 王克敏 張伯苓 劉 哲
 張厲生 湯爾和 沈鴻烈 何其鞏 殷 同 袁 良
 委員長 劉瑞恒 副委員長
 院各部長
 委員 馮大昭 栗 威 伍連德 田維樞 羅運炎 陳炳光

禁煙委員會

- 委員長 劉瑞恒 副委員長
 院各部長
 委員 馮大昭 栗 威 伍連德 田維樞 羅運炎 陳炳光

(行政院所屬)

橋務委員會

- 委員長 陳樹人 副委員長 同啓剛
 委員 吳紹寬 馬寅初 胡毓政 鍾可託

帶務委員

- 吳鐵城 同啓剛 曾養甫 蕭吉珊 謝作民 戴德生
 陳米水 曾仲鳴 林伯生

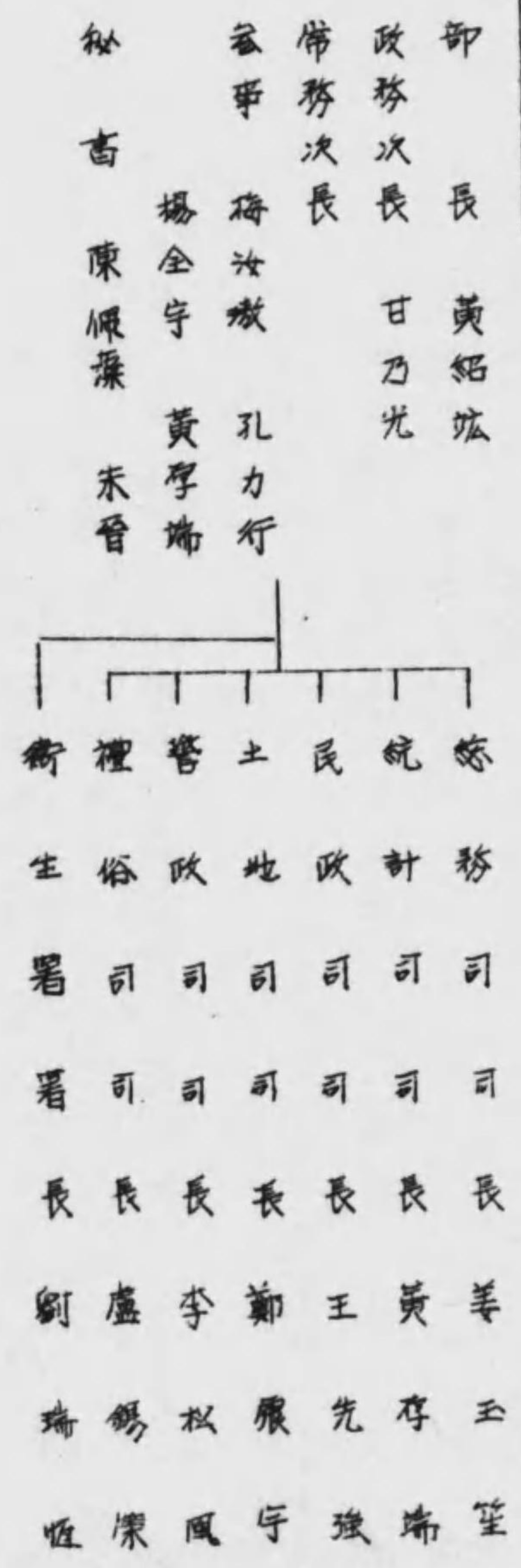
振務委員會

- 主席 許英世 官職委員 行政院各部長
 委員 熊希齡 嚴 莊 劉鎮華 汪守珍 水梓 李燦瀾 孫

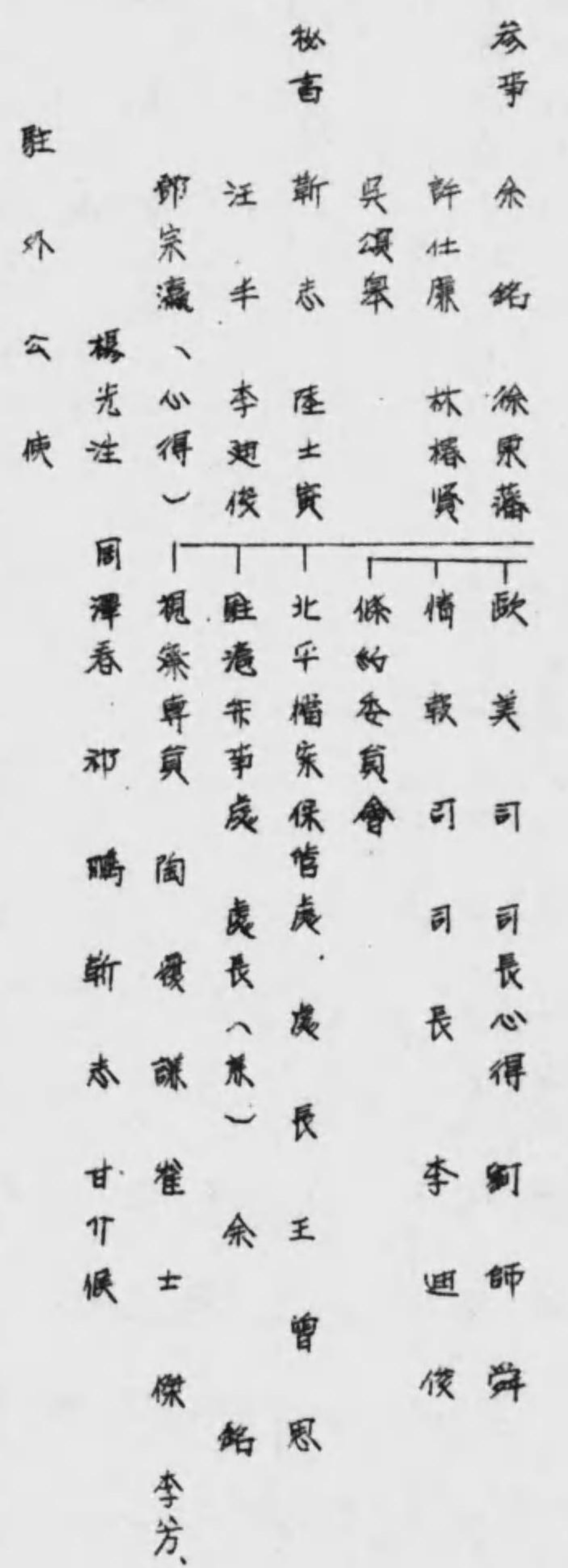
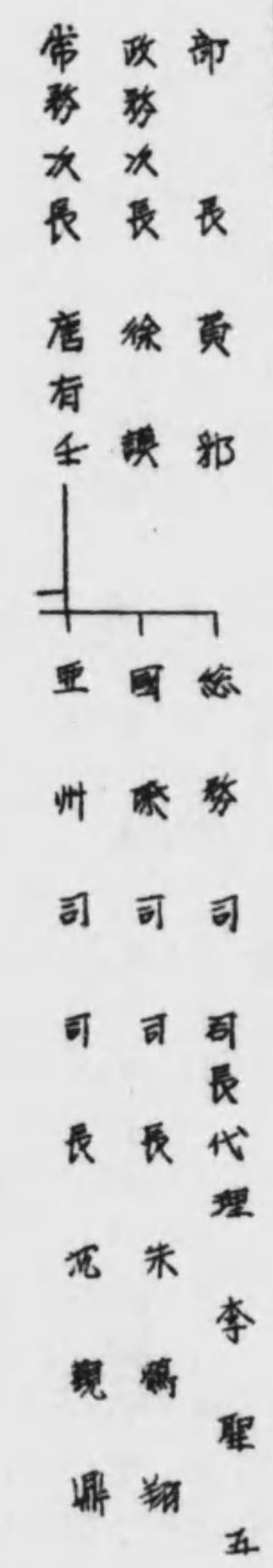
威海衛管理公署

- 管理委員 徐祖善 李 晉 王 張

內政部



外交部



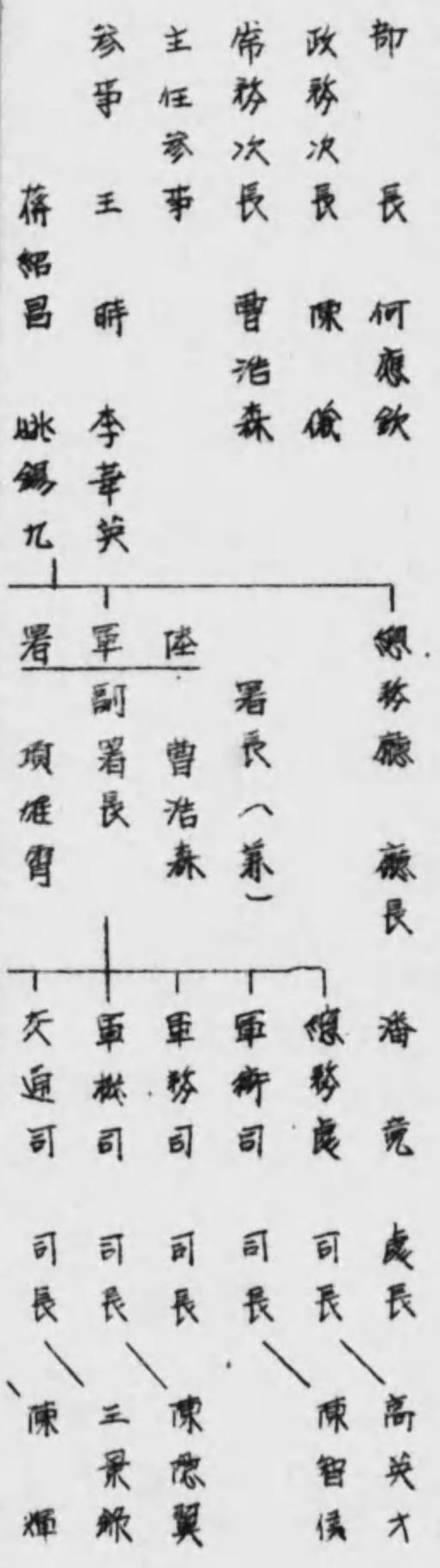
- (日) 蔣作賓 (英) 郭杰祺 (米) 施肇基 (師) 顧維鈞 (甲) 劉文島 (杜) 劉崇傑 (、) 顧維鈞 (白) 張乃燕 (澳) (兼) 劉崇傑 (蘭) 金問泗 (端西) 胡世輝 (西) 錢恭 (葡) 張敬海 (瑞) 典) 諸昌年 (哈威) (兼) 諸昌年 (丁林) 羅忠詒 (波蘭) (兼) 李錦倫 (芬蘭) (兼) 諸昌年 (墨)

財政部

黃芝蘇 (伯) 熊崇志 (次) 凌冰 (巴奈馬) (臨
 研代理) 李世中 (智利) 張謙 (秘書) 魏子京
 (國際聯盟理事務所長) 吳凱彤

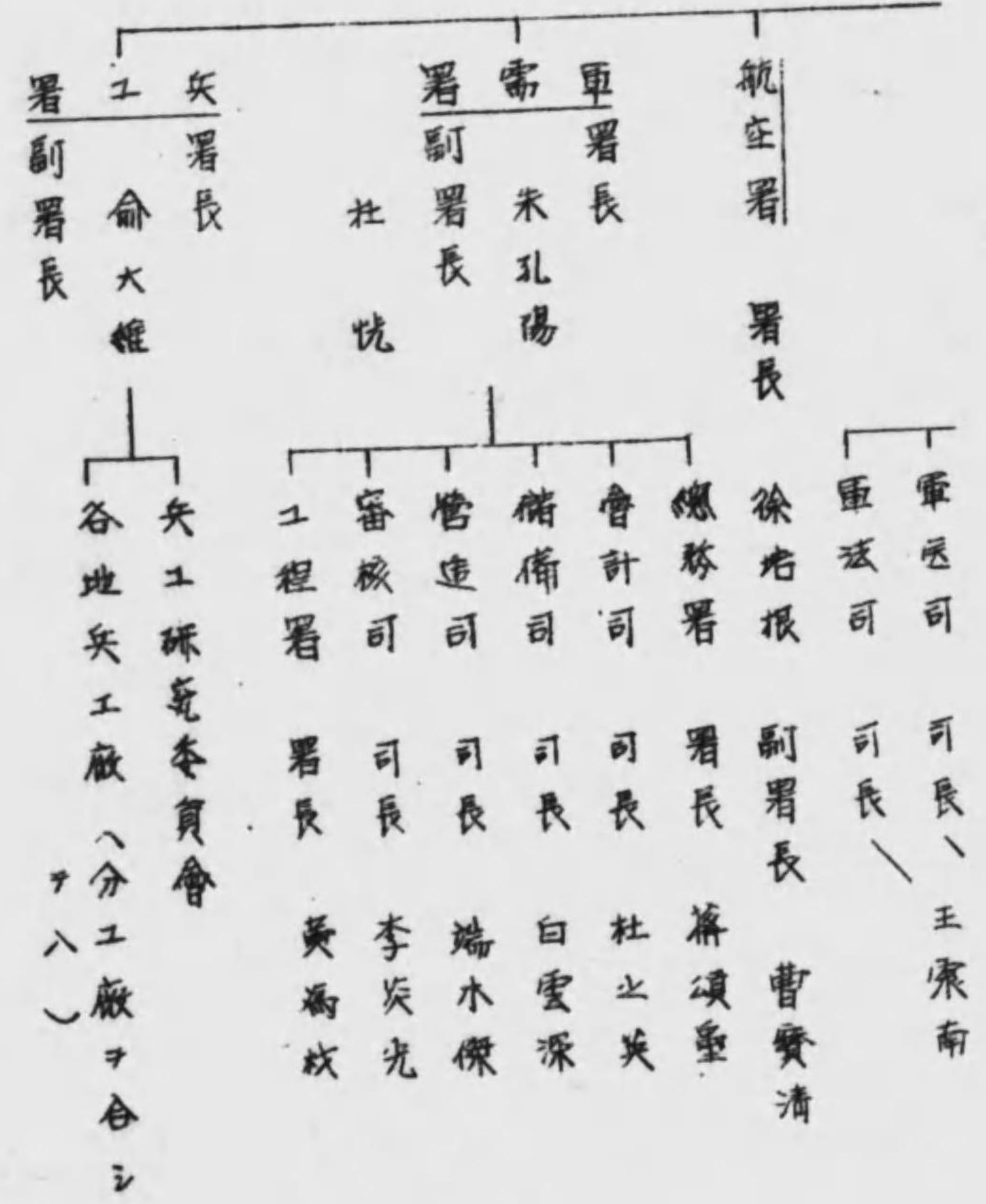


軍政部



海軍部

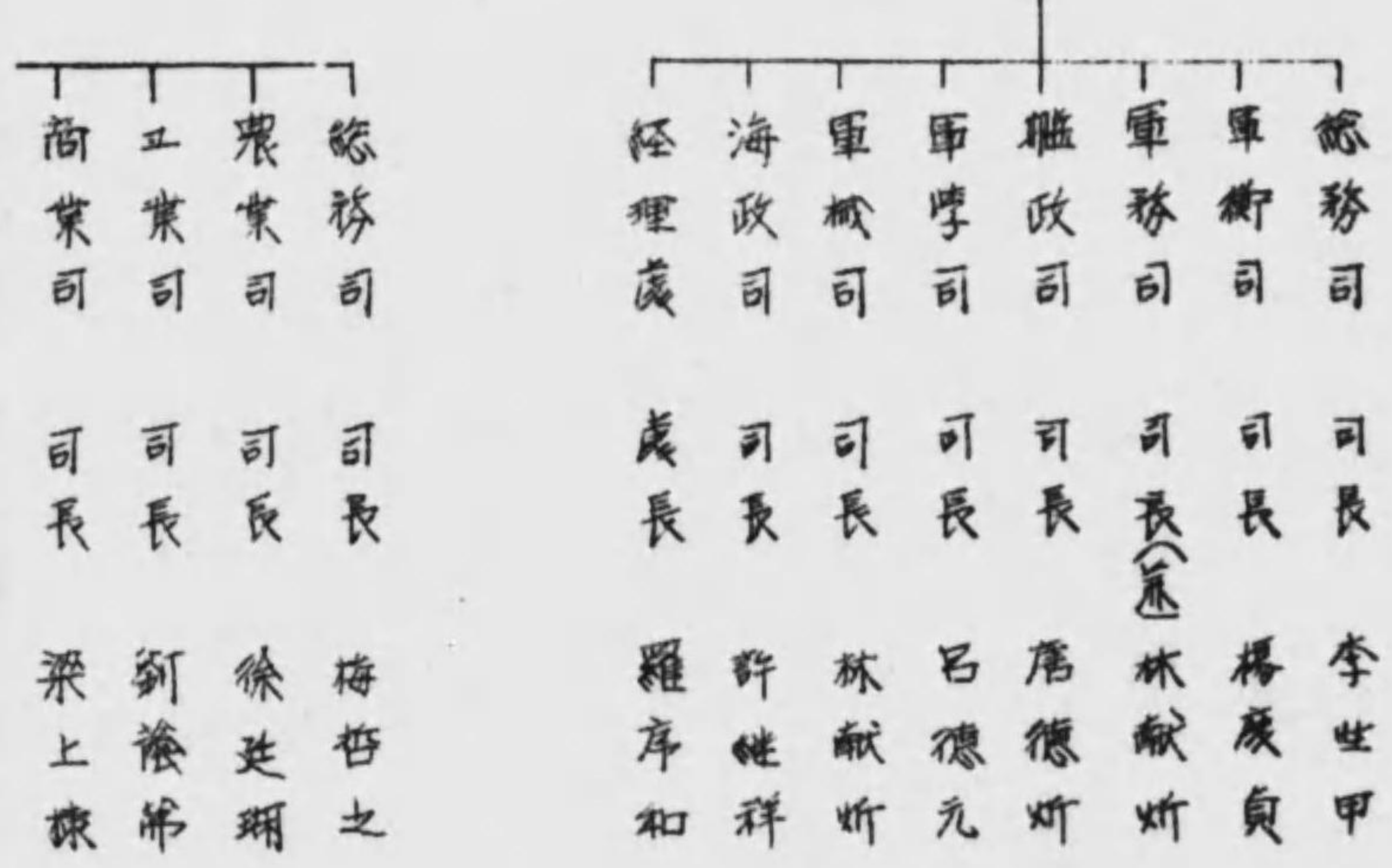
嚴寬 王文彦
陳果烈



實業部

部 長 陳紹寬
政務次長 陳季良
常務次長
參事 林永讓 任光宇
技監 鄭滋輝

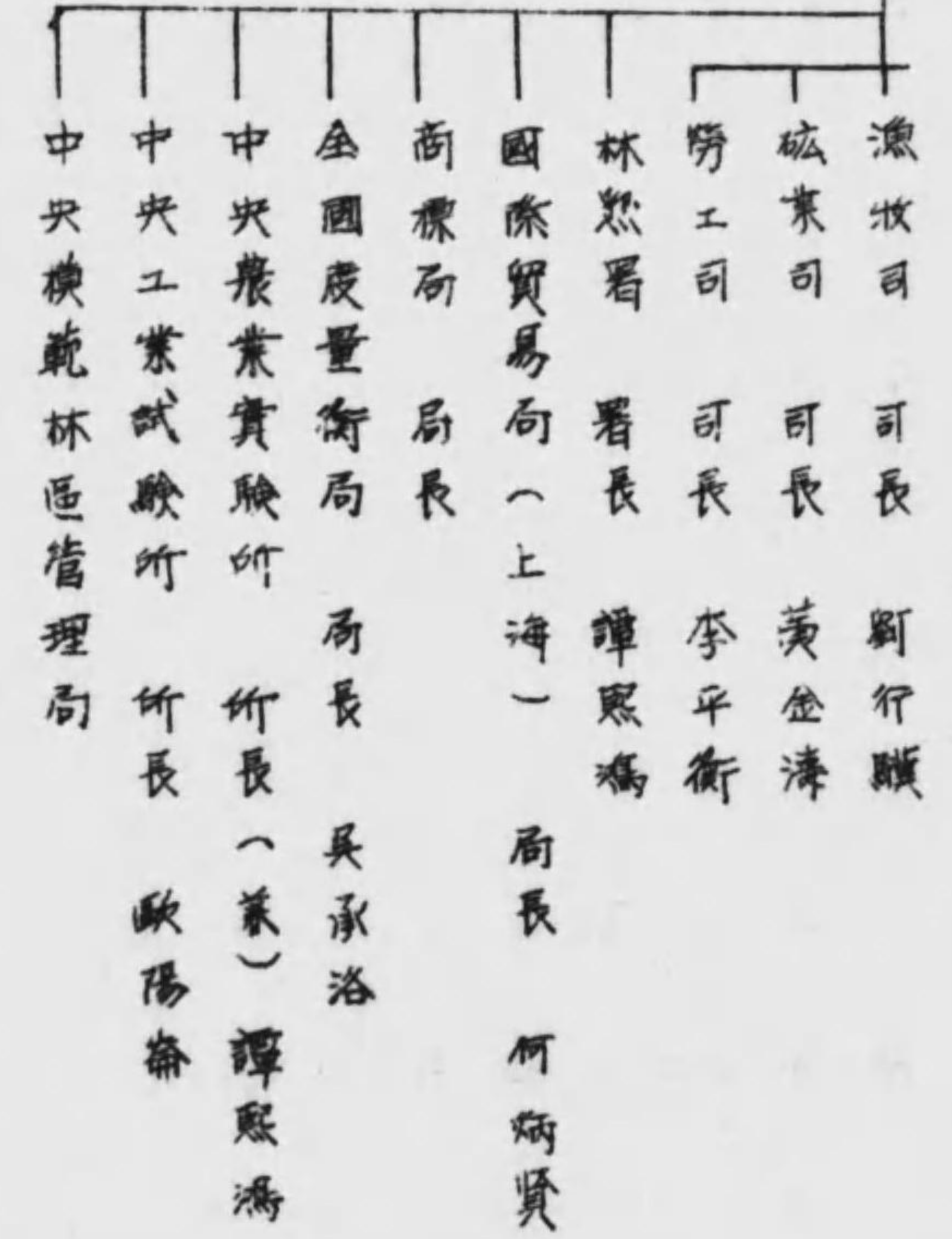
部 長 陳公博
政務次長 郭恭濤
常務次長 劉維斌
參事 卓宜謀



秘書 余愷港 李宋年
 陳鐘声
 秘書 羅敦偉 湯澄波
 技監 張軼歐

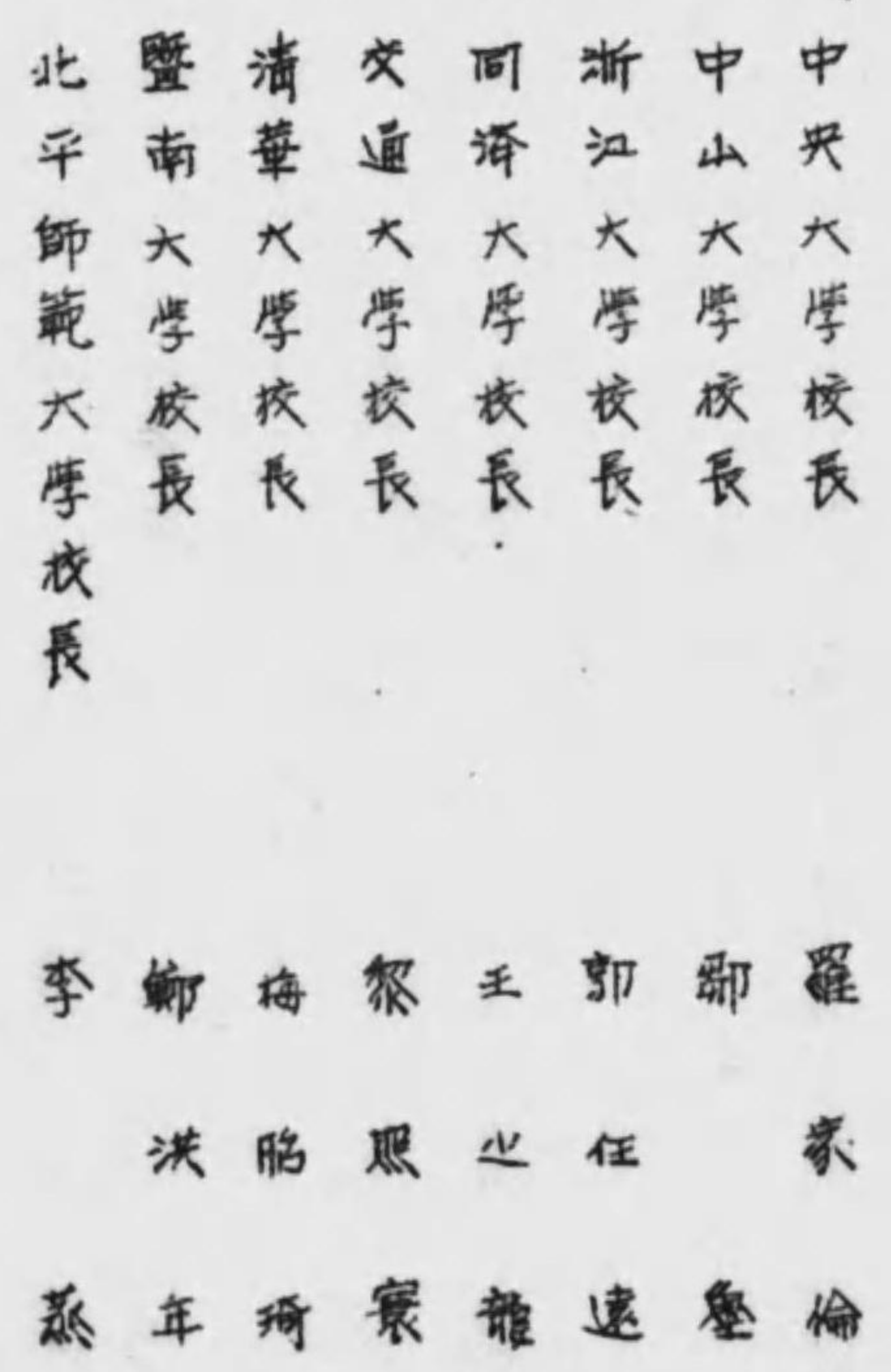
教育部

部長 王世杰
 政務次長 饒錫明

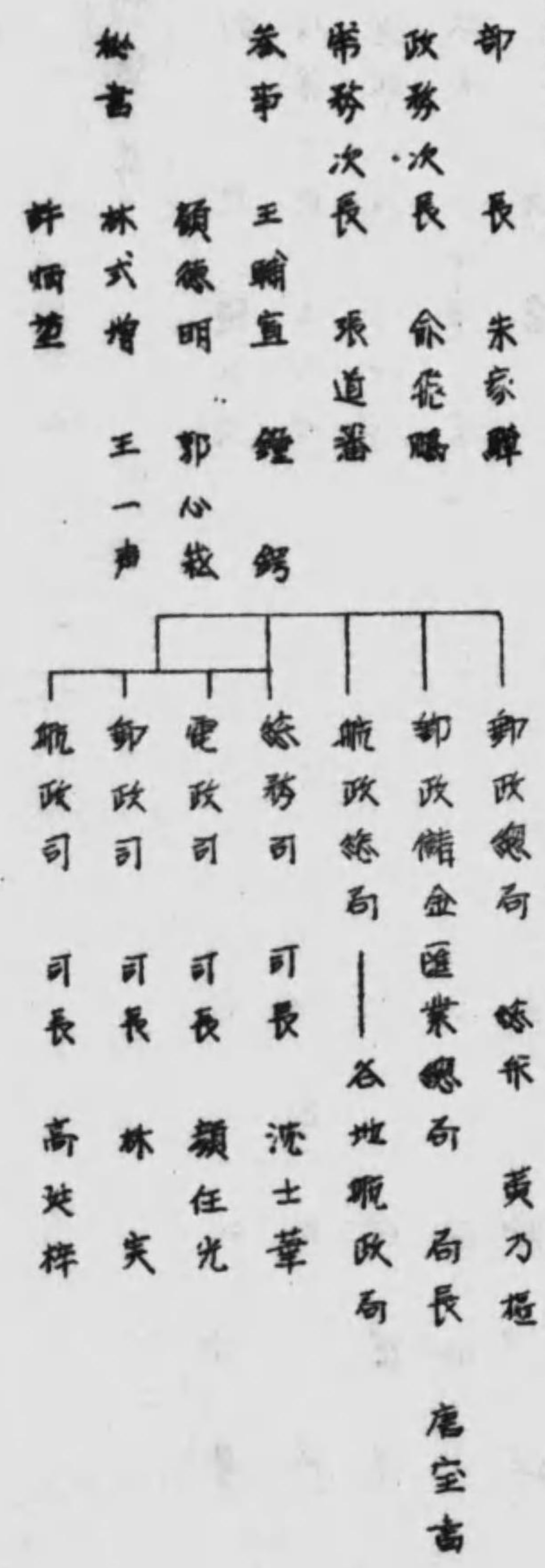


帶務次長 錢昌照
 參事 楊芳 陳泮藻
 伍徽 陳石珍
 秘書 許炳堃 方叔章
 高爾梓 楊公達
 王萬鐘

國立各大學



交通部



- 北京大學校長 蔣夢馨
- 北平大學校長 (代理) 徐誦明
- 武漢大學校長 (代理) 王 聖 拱
- 山東大學校長 趙 晰
- 勞勿大學校長 王 景 岐

鐵道部



- 北平鐵路管理局局長 殷 同
- 平漢鐵路管理局委員會委員長 何 競 武
- 津浦鐵路管理局委員會委員長 邱 燁 燁
- 京滬、杭甬鐵路管理局局長 陳 興 漢

各鐵路局

平綏鐵路管理局長	沈昌
正太鐵路管理局長	王懋
膠濟鐵路管理局委員會委員長	葛光廷
南浦鐵路管理局長	范致遠
吳漢鐵路湘鄂段管理局長	屠毅會
道清鐵路管理局長	范于遜
津浦鐵路管理局長	林猷斌
離海鐵路管理局長	錢宗澤
離海鐵路漢西段工程局長	凌鴻勳
粵漢鐵路株韶段工程局長	卓廉成
粵漢鐵路廣韶段工程局長	李仙根
包甯鐵路工程局長	我翼翹
滄石鐵路工程局長	唐文高
廣九鐵路管理局長	陳君橫

司法行政部

部長 羅文翰
 政務次長 鄭天錫
 事務次長 石志泉
 參事 徐維康 錢 恭
 秘書 閔 霽 光 冕

總務司	刑事司	民事司	監獄司
司長 嚴 楨	司長 李 養	司長 陳 瑾	司長 王 元
司員 嚴 楨	司員 李 養	司員 陳 瑾	司員 王 元

考試院

院長 戴傳賢
 副院長 鈕永建

秘書處 秘書長 許宗瀚
 參事處 參事 錢 炎 郭心崧 伍非百 張忠道 高槐川 劉

陸紋部 光華
部長 林翔
秘書 李雲鵬
政務次長 沈整
常務次長 馮沃煥

登記司 司長 宋漢
甄核司 司長 王維藩
育才司 司長 馬鵬天

考選委員會 委員長 王用賓
委員 馮大奔
秘書 沈士
速 黃序編 張默君 辛樹幟

監察院

院長 于右任
副院長 丁惟汾
監察委員 定員二十九人乃至四十九人、半數八官選、半數八法

國立中央研究院

院長 蔡元培
總幹事 楊銓
研究所長 蔡淦

定人民團體之於于選舉人

秘書長 王陸一
秘書 林景
童公廉 楊天驥 王

參事處 參事 曾道 蔣文正 王敬芳 王廣慶 高翔

審計部
部長 李元鼎
政務次長 王正基
常務次長 童冠英
秘書 王文海
總務處
第一廳 審計 王培鵬 常雲涓 蔡棟宇
第二廳 張承德 顧亦有 劉文海
第三廳 周增奎 李維時

建設委員會

本負長 張人傑

副本負長

秘書長 劉石心

參事 蕭文熙 聶其煥 羅吉開 潘銘新

委員 劉紀文

吳忠信 李朱黃 錢永銘 朱家驊 李度身

吳敬恒 李煜瀾

徐務農 處長 秦瑜

蔣中正 胡漢民

電氣處 處長 鮑國寶

何應欽 孫科

水利處 處長 陳懋解

魏道明 宋子文

華北水利委員會 委員長 陳懋解

孔祥熙 戴傳賢

太湖水利委員會 委員長 曾養甫

易培基 陳立夫

中央模範林區委員會 委員長 姚傳志

葉楚傖 蔡元培

購料委員會 委員長 陳華琳

鄭汝年 鄭毓秀

教育基金委員會 主席 李煜瀾

全國經濟委員會

陳德暉 葛敬恩 主席 李煜瀾
賀國光 李輝 計重庚 委員長 主席 褚民誼

常務委員 汪兆銘 孫科 朱子文
秘書長 秦汾 棉業統制委員會 主任委員 陳光甫

委員 孔祥熙 李煜瀾 黃紹竑 顧孟余 朱家驊 陳公博 王世杰
張人傑 蔡元培 邵元中 褚民誼 楊瑞六 秦汾 葉恭綽
連声海 張嘉璈 李銘 周作民 晏陽初 虞和德 吳鼎昌
榮宗敬 劉瑞恒 陳立夫 錢新之 陳光甫 劉鴻生 史量才
王曉籟 徐新六 王克敏 康伯莊

全國財政委員會

委員 孔祥熙 李煜瀾 黃紹竑 顧孟余 朱家驊 陳公博 王世杰
張人傑 蔡元培 邵元中 褚民誼 楊瑞六 秦汾 葉恭綽
連声海 張嘉璈 李銘 周作民 晏陽初 虞和德 吳鼎昌
榮宗敬 劉瑞恒 陳立夫 錢新之 陳光甫 劉鴻生 史量才
王曉籟 徐新六 王克敏 康伯莊

黃河水利委員會

委員長 李 濂 社
副委員長 王 應 榆

導淮委員會

委員長 蔣 中 正

首都建設委員會

總理陵園管理委員會

委員長 蔣 中 正
委員 蔣 中 正
委員 蔣 中 正
委員 蔣 中 正
委員 蔣 中 正
委員 蔣 中 正
委員 蔣 中 正

中華共和國人民革命政府機構

中華人民共和國革命政府

人民革命政府委員會

軍事委員會

經濟委員會

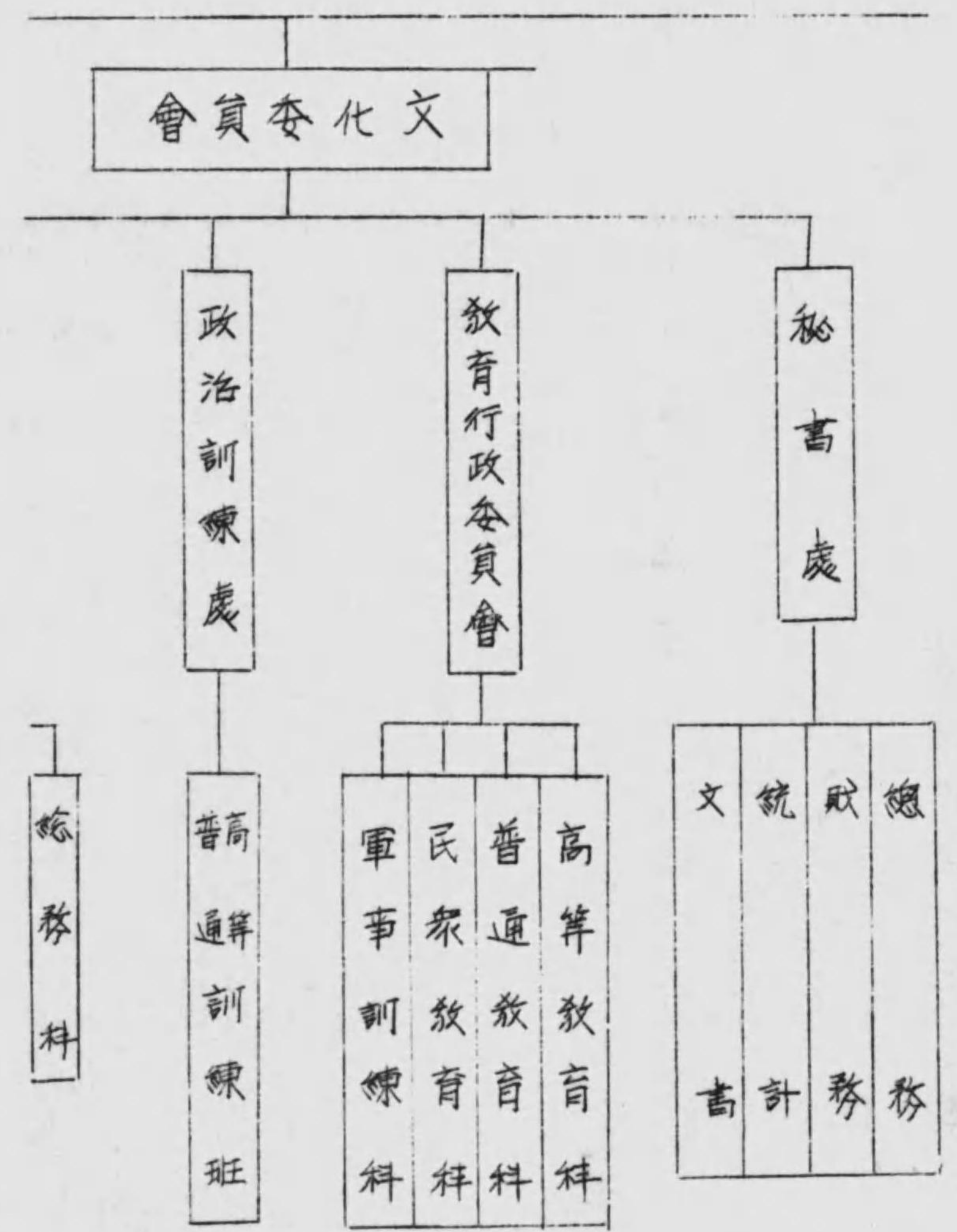
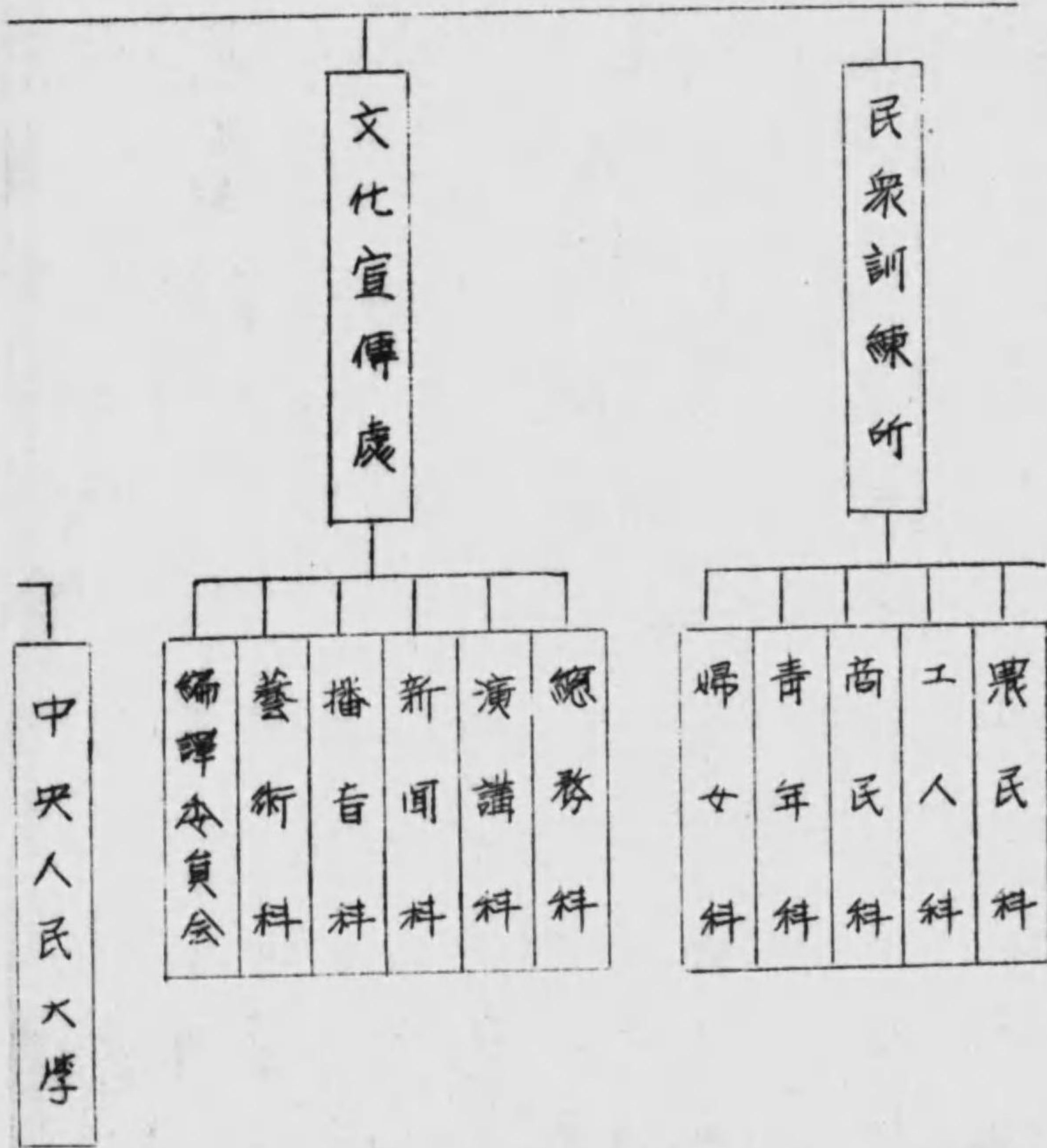
政治部

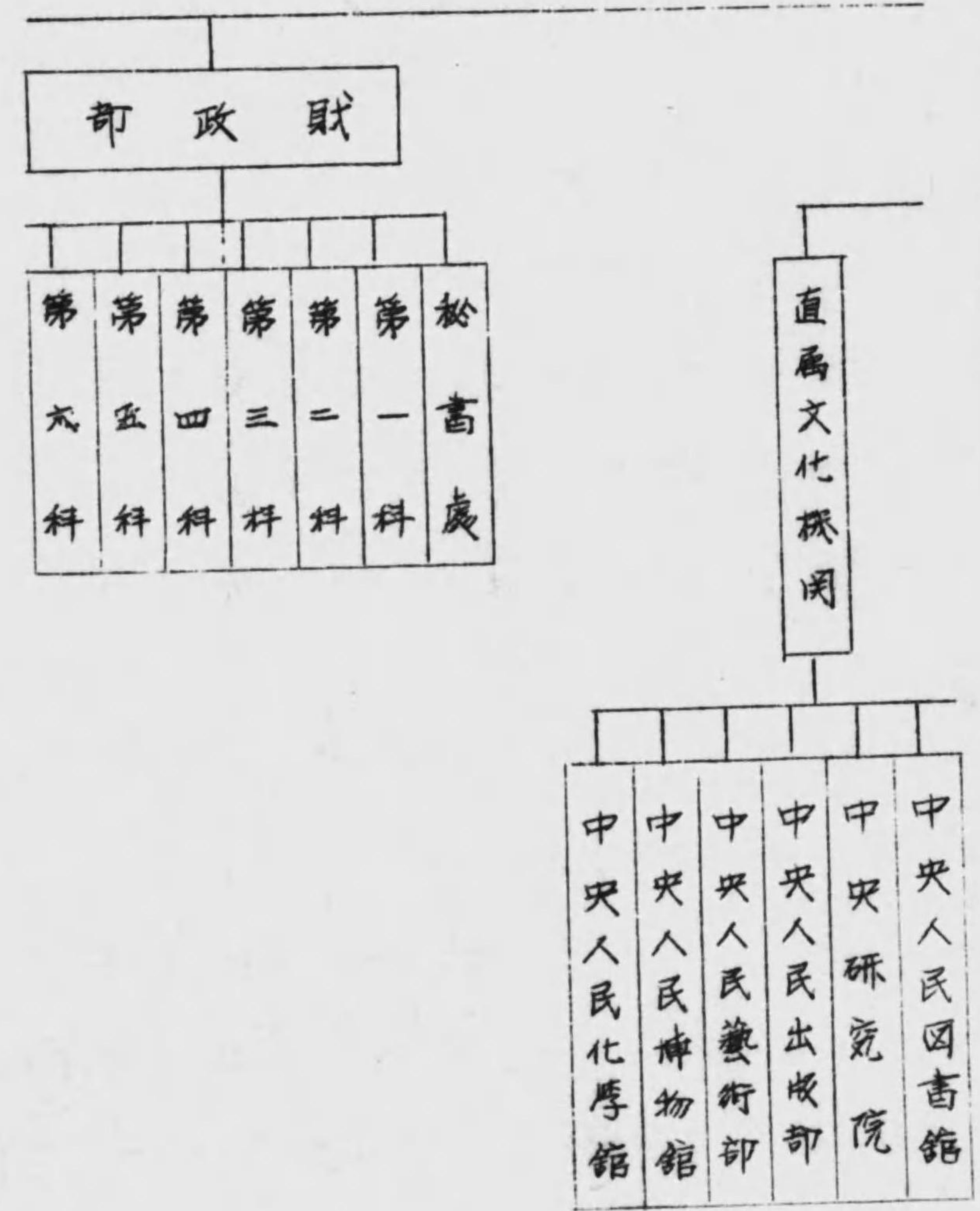
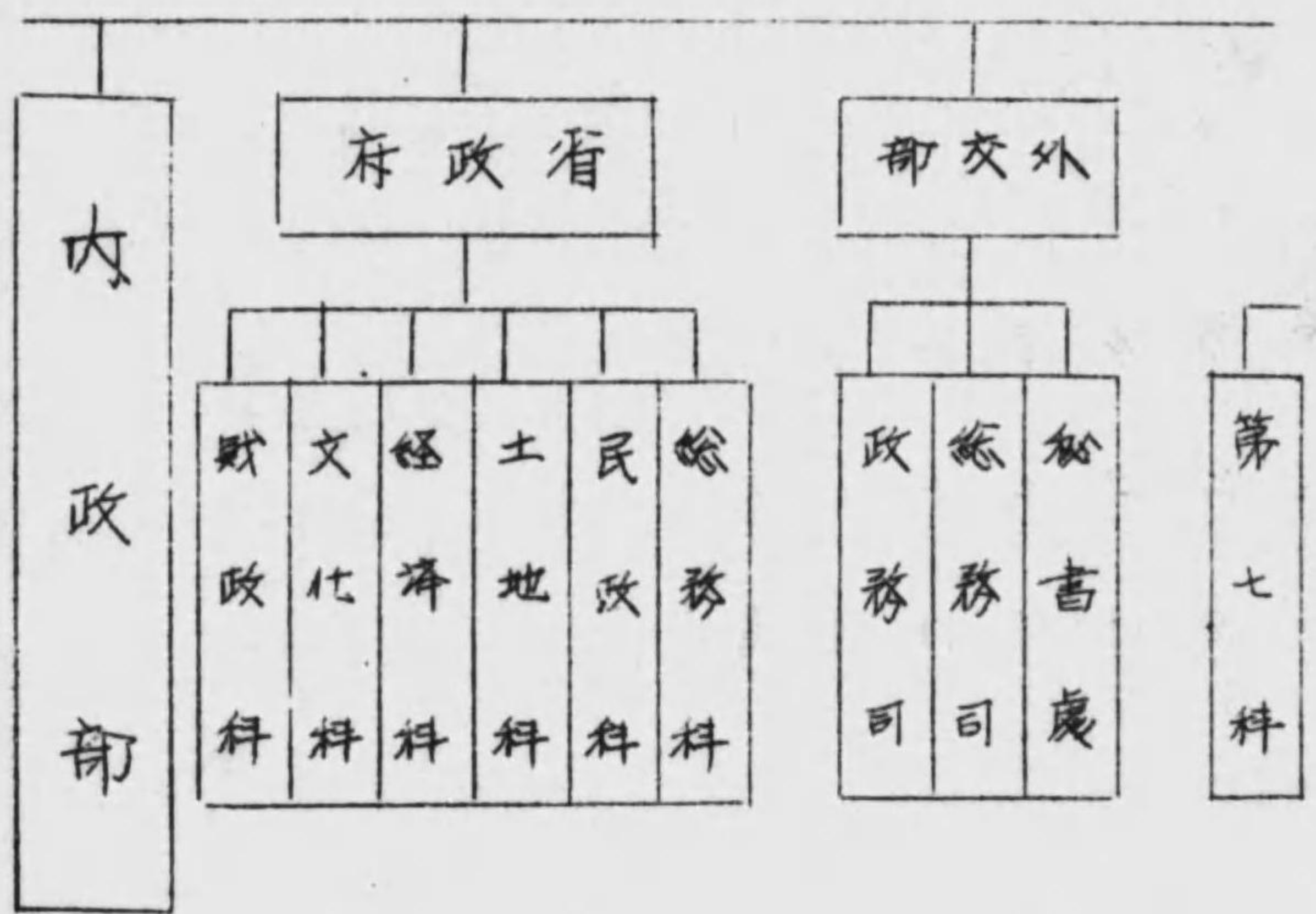
參謀團

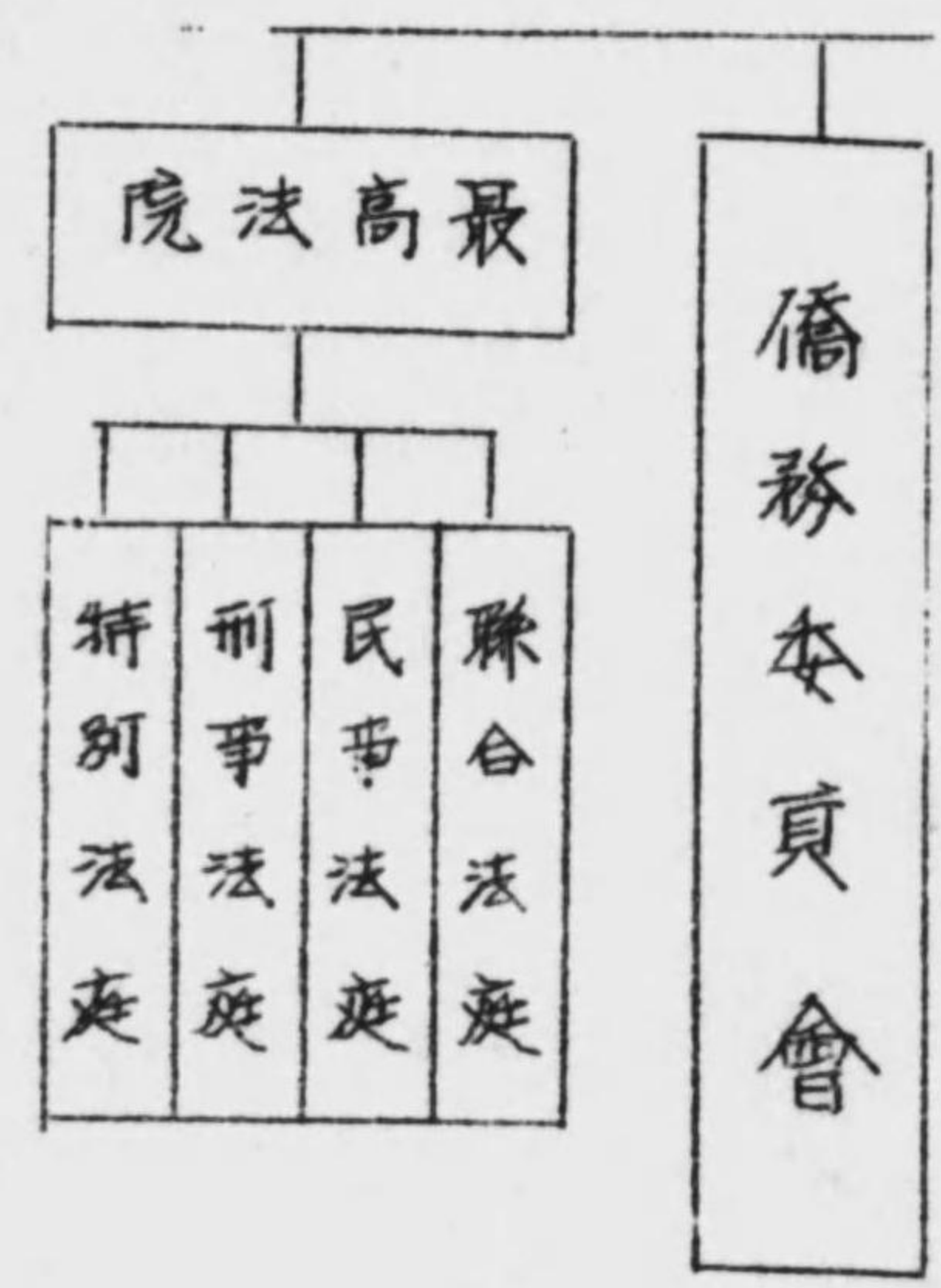
第一處	第二處	第三處	第四處
-----	-----	-----	-----

秘書處	統計處	土地委員會	勞務委員會	商務委員會
-----	-----	-------	-------	-------

中華人民共和國革命政府組織表







民國二十六年八月八日
 行政院會議
 通過
 大總統令
 公布
 中華民國二十六年八月八日
 行政院會議
 通過
 大總統令
 公布

昭和九年五月八日印前
昭和九年五月十一日発行

「作虎品」

大阪市北區梅ヶ枝町梅ヶ枝ビル

発行所 六月社会問題調査所

発行編輯 六月久 浩
兼印刷人

終

